

SUMS News



「第34回 碧鈴祭」を開催しました！

11月9日(土)～10日(日)の2日間に渡り、白子キャンパスにて「第34回 碧鈴祭」を開催しました。今年度の碧鈴祭は『See Your Smile ～今しかない瞬間(とき)を～』をテーマに、大学祭を運営する中で、ご来場者様はもちろんのこと、関わる全ての人に笑顔で過ごしていただけるよう取り組みました。

期間中は、2日間を通して各学科(専攻)の発表、クラブサークルによるステージや展示、学生等団体による模擬店の出店、実行委員会による来場者参加型企画を行いました。さらに、1日目はU字工事・エイトブリッジによるお笑いLIVE、シナモロールLIVE、サラナ保育園児による和太鼓演奏、2日目はカネヨリマサルによる音楽LIVEなど、盛り沢山の内容で充実した大学祭となりました。

両日ともにご参加いただいた皆さまに盛り上げていただき、ご来場者様・大学祭スタッフともに多くの笑顔につつまれ、テーマ通りの碧鈴祭を成し遂げることができました。

碧鈴祭の開催にあたりご協力いただいた本学教職員・学生の皆さん、その他碧鈴祭にご参加・ご来場いただいた全ての皆さまに厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

＜学生課＞



第34回碧鈴祭 学科発表

理学療法学専攻 碧鈴祭での専攻発表を経験して

保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 2年 宇城 皓平・中森 巧・西田 佑真

理学療法学専攻では、「ポッチャ」と「楽しく！筋トレ&脳トレ」という企画を行いました。

「楽しく！筋トレ&脳トレ」には、沢山の方にご来場いただきました。筋トレでは子供から大人まで大勢の参加者と共に、私たちもスクワットを行いました。ご来場いただいた方の中には様々なスポーツの経験がある方や運動したいという方もいらっしや、一緒にやる私たちが負けてしまうこともありましたが、脳トレでは「交通安全信号体操」を行いました。こちらは家族連れの方に多く参加していただき、お子さんと一緒にお互いに指摘し合いながら楽しく脳トレを行っている姿が見られました。また参加されたほとんどの方の反応が早く、私たちも驚かされました。

「ポッチャ」では、老若男女問わず多くの方に、ポッチャという競技について体験を通して知ってもらえました。来場者の方が笑顔でポッチャをしてきている時や、体験が終わった後、「ありがとう」と言ってもらえた時は、とても嬉しかったです。担当した学生も最初はどのようにルールを説明して良いのか分からず戸惑いもありましたが、時間が経つと笑顔が増えていき、来場者と一緒に楽しくポッチャを行いました。

準備は大変な部分もありましたが、2年生が一丸となり協力し楽しく作業をすることができました。



臨床工学科 見て触れて理解できる体験イベント

医用工学部 臨床工学科 3年 遠島 来実

臨床工学科の学科発表は、1年生から4年生までの32人の有志が協力し、医療機器の展示・体験、手作りソーラーライト・輸液ポンプの分解といった工作教室を実施しました。

医療機器の展示・体験では、複数の学年で知識や意見を共有して医療機器についてのポスターを作成しました。当日は、遠心ポンプの手回し体験や電気メスでリングを焼き切る体験など、昨年よりも来場者に体験してもらえる機器を増やし、医療機器を身近に感じていただくと同時に学生たちの学習の場にもなりました。

工作教室体験では、手作りソーラーライトは簡単で安全に製作可能であり、子供からお年寄りまで多くの方に楽しんでいただけました。輸液ポンプの分解では、小さなネジを外し、細かな基板、機構を観察することで、輸液ポンプについて見て、触れて、理解できる体験イベントになりました。



学科発表を通じて、ご来場の皆さまに臨床工学科の魅力を伝え、医療機器について興味を抱いていただけたと感じています。また、私たちは、他学年とのつながりを深めることができ、コミュニケーションスキルや問題解決能力の向上に繋がりました。

今後、臨床工学科は子供たちが臨床工学技士の魅力を感じ、将来のキャリアとして考えてもらえるような体験学習を提供していきたいと思います。

ご協力、ご来場いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

医療健康データサイエンス学科 成功した？学科発表の裏で…

医用工学部 医療健康データサイエンス学科 3年 水谷 瑠雅

皆さん、こんにちは。昨年同様、今年も多くの方に本学科の展示発表に足を運んでいただき、ありがとうございました。

今年は、昨年先輩が取り組み、好評いただいた展示に加え、自分たちや後輩との会議を行い、「多くの人に本学科のことをもっと知ってもらう」を目標としました。そして、新たな試みとして「自作クレーンゲーム体験」と「学科のクイズラリー」を企画しました。

しかし、企画をしたものの、その先がなかなか進まず、あっという間に10月も半ばに。正直あまり理想的ではない状態でした。

私も基本的に静観の姿勢でしたが、このままでは間に合わないと感じ、協力者を集めて作業を進めました。

結果としては、多くの先輩や先生方にご協力いただき、ほぼ手付かずの状態からなんとか予定していた展示の全てを実施することができ、来場者数も750人以上と昨年よりも多くなりました。しかし、自作クレーンゲームではメンテナンス作業中で来場者をがっかりさせてしまう場面があり、準備不足だったと思う点も多く、もっと早く舵取りしていれば良かったと、後になって思います。

裏では沢山の苦労がありましたが、様々な方に助けられて、なんとか期日に間に合わせることができたので、やりがいを感じられ、とても良い経験となりました。



皆で協力して作製した
クレーンゲーム

看護学科 大人から子供まで楽しめる体験型の健康チェック

碧鈴祭看護学科実行委員長・看護学部 看護学科 2年 富満 妃奈乃

私たちの学科は、「参加者が健康について関心が持てるようなものを作る」、「身近にある自助具の利便性を知ってもらえるようなものを作る」、「大人・子ども両方が楽しめるようなものを作る」という3つのことをコンセプトに企画しました。時には様々な課題もありましたが、大学祭メンバーと協力し、850名以上も来場者があり、盛況に大学祭を終えることができました。下記に催し物を紹介します。

- (1) 血圧測定：学生が参加者(高校生以上)の血圧を測定し、血圧の値を知っていただきました。参加者は「手動で測るところを初めて見た」「自分の血圧の値を初めて知った」など珍しい体験に驚かされていました。
- (2) 聴診器体験：参加者に実際に聴診器を使ってもらい、心臓の音や呼吸音を聞いていただきました。特に子どもから好評で「音が聞こえるのが面白い」「自分からこんな音が聞こえるのがすごい」など、皆さん笑顔で楽しんでいました。
- (3) ペットボトルオープナー体験：軍手をして高齢者の巧緻性低下を体験してもらいながら、自助具を実際に使用してその便利さを体験していただきました。参加者からは、「普段からペットボトルが開けにくいと感じていたからこんな道具が身近にあるならこれからも使いたい」という声があり、自助具の魅力について伝えることができました。

今後、この経験を通じてもっとたくさんの方々に健康に興味を持っていただけるような活動をしていければと考えています。



(1) 血圧測定

親子二世代にわたる入学者に対する感謝状贈呈

鈴鹿医療科学大学同窓会 会長 武藤 裕衣

11月10日(日)親子二世代にわたって本学に入学した一組のご家族に対して「親子二世代入学者表彰」を行いました。第一号に輝いたのは藤田直弘様(医用工学部 医用電子工学科1期生)・彩乃さん(看護学科1年)の親子です。

この表彰は、本学の歴史とともに歩まれてきたご家族を、碧鈴祭期間中に同窓会ブースにおいてご紹介し、感謝の意をお伝えさせていただくものです。表彰式では、同窓会長からご家族に表彰状及び記念品を贈呈しました。受賞者からの表彰式への感謝と本学の更なる発展を祈願する旨のスピーチに、会場に集まった卒業生から盛大な拍手が送られました。



第9回日本薬膳学会学術総会、市民公開講座を開催

日本薬膳学会学術総会 事務局長・保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科長 山本 晃久

12月1日(日)白子キャンパスにて、「You Are What You Eat ～命は食にあり～」をテーマに第9回日本薬膳学会学術総会を開催しました。

市民公開講座では、唐木英明 東京大学名誉教授が「紅麴って本当に危険なの？」と題して、紅麴問題の原因とバランスの良い食事についてわかりやすくお話されました。また、薬膳ランチセミナーでは、高木久代 代表理事より「薬膳でより健康にそして美しく」と題して、薬膳弁当の内容と体を整える旬の食材について解説されました。学術総会は、譚 興貴 世界中医薬学会連合会 薬膳食療研究専門委員会会長の来賓挨拶、長村洋一 大会長による「健康食品で命を落とさないために」、三浦俊宏 医療栄養学科長による「2型糖尿病に効果ある食品について」、岩島 誠 薬学科教授による「美味しくないと美味い機能性表示食品」について大変興味深い内容のご講演をいただきました。



講演内容は海外にライブ配信され、中国、台湾などの専門家の方々が視聴されました。企業展示も出展いただき、学会と共同開発した商品が即日販売されました。会員の方々は元より、学生たちも参加し、薬膳・食養の最新事情について教養を深めた内容の濃い学術総会になりました。講演後は、コロナ禍の影響から中断されていた薬膳パーティーが4年ぶりに開催され、ご参加いただいた方々の親睦も深めることができました。

桑名市と包括連携に関する協定を締結

12月23日(月)桑名市と本学は、包括連携に関する協定を締結し調印式を行いました。

本包括協定は、両者が共通する理念のもと相互に連携を図り、協働のまちづくりの推進ならびに学生の教育研究力の向上に寄与することを目的としています。



協定は女性のウェルビーイング向上をはじめ市民の健康向上に関すること、学生の教育研究に関すること、医療・福祉および地域防災を支える人材育成に関することなどの取り組みを想定しています。具体的には、本学教員による桑名市での市民公開講座の開講や、桑名市報への健康・福祉に役立つコラム掲載などが予定されています。

今後、両者の持つ資源を活用し、相互に連携と協力を深め、桑名市民の皆さまの健康・医療・福祉に貢献してまいります。
 <企画広報課>

第17回薬学部健康講座に約200名の市民が参加しました

薬学部 薬学科 教授 定金 豊

10月27日(日)白子キャンパスにて、第17回薬学部健康講座を開催しました。今回のテーマは、「亜鉛の力：私たちの健康を保つために欠かせないミネラルの秘密」で、薬学科長の西田圭吾教授が講師を務めました。

200名収容の大きな教室がほぼ満員となるほどの盛況ぶりで、講座は大変な熱気に包まれました。西田教授は、高齢者における亜鉛の摂取不足の現状や、亜鉛不足が引き起こす健康障害について、具体的かつ分かりやすく解説されました。また、桜の森白子ホームで進行中の最新の研究成果を紹介し、亜鉛を効率的かつ適切に摂取するためのとっておきの方法も伝授いただきました。多くの参加者が講演内容を自分の生活に役立てようと真剣に耳を傾ける姿が印象的で、講演後も質問が後を絶たず、質問者の列が長く続くほどでした。

健康講座終了後には、模擬薬局、模擬病棟、無菌調剤室など薬剤師教育に関わる施設を希望者に見学していただきました。参加者の多くが見学を希望され、とても混雑した状況となりましたが、「素晴らしい施設だ」とのお声を多数いただきました。

薬学部健康講座は、薬学部が新設された2008年から継続して開催されており、ここ数年は毎回約200名の市民の方々にご参加いただいています。この活動が近隣地域の皆さまに薬学部を知っていただくための広報活動として、着実に根付いていると感じています。今後、各学部・学科で行っている同様の活動が有機的に連携することで、さらに効果的な大学広報活動となることが期待されます。



救急救命学科の学生が市民公開講座を行いました

保健衛生学部 救急救命学科 3年 水谷 愛琉

11月24日(日)白子キャンパスにて、救急救命学科の学生が主体となり市民公開講座「学生と緊急時に役立つ英語を学ぼうーYou can do it!」を開催しました。グローバル化がますます進む中、緊急時に役立つ英語を学ぶことの重要性を伝えるため、アメリカ人講師のマイケルス・ジョーダン先生と協力して企画・実施しました。

当日は、子供からご年配の方まで幅広い世代が楽しめるよう、多彩なプログラムを用意しました。英語を使ったクイズや劇、CPR(心肺蘇生法)レースなどを通じて、市民の皆さまには英語に触れながら緊急時の対応を体験していただきました。特にCPRレースでは、参加者が学生とともに実際に練習し、その体験を通じてスキルを身につける場となりました。さらに、レースの参加者や優勝者には消防車や救急車の形のクッキーをプレゼントし、会場は笑顔と活気にあふれました。

私たち学生は本学で学んだ英語や救急救命の知識を活かして、その重要性や具体的な内容について熱心に説明しました。これにより、参加者の皆さまには救急救命の必要性を深く理解していただく機会となりました。

講座終了後のアンケートでは、「前回も参加しましたが、今回は学生さんが主体となっていてとても良かったです」「日常的に使える英語を学べて、とても有意義でした」「普段経験しないことに触れられて、良い機会になりました」といった好意的な感想を多くいただきました。

今回の講座を通じて、救急救命への意識を高めるとともに、英語に対する親しみを感じていただけるきっかけとなればとの思いから企画しました。それでも「本当に市民の方々に参加して下さるだろうか」という不安もありましたが、当日は多くの参加者に恵まれ、とてもうれしく思いました。

地域の皆さまと交流を深める貴重な機会となり、互いに学びを共有できたことに感謝しています。今後もこのような活動を通し、地域社会への貢献をさらに広げていきたいです。



2024年度「実践で学ぶ多職種連携」実習報告会について

多職種連携教育委員長・保健衛生学部 臨床検査学科 教授 吉子 健一

10月5日(土)白子キャンパスにて、多職種連携教育ピラミッドの頂点に位置する科目である「実践で学ぶ多職種連携」の実習報告会が開催されました。2024年度の実習は、鈴鹿中央総合病院、鈴鹿回生病院、三重大学医学部附属病院、済生会松阪総合病院、いなべ総合病院、一志病院、市立四日市病院、村瀬病院、塩川病院、桜の森病院の10施設で8月末から9月初旬の3日間行われ、夏休み期間にもかかわらず4年生51名が参加しました。



報告会には8施設から10名の実習指導者が臨席され、「実習の姿勢が積極的であった」「多くを学んでもらえた」「素晴らしい報告会であった」との高い評価をいただきました。私は、ある学生が報告会で「この実習に参加し、実際の患者を受け持ったことで、自職種がチーム医療に具体的にどのように関わるか、また自職種がいかに医療現場に必要であるかを理解できた」と発言されたことが深く印象に残っています。

3年生、4年生の皆さん、多職種連携やチーム医療に特化し、自身の所属する学科専攻における臨地（臨床）実習とは異なった「学び」や「経験」ができる「事例で学ぶ多職種連携」「実践で学ぶ多職種連携」を受講し、本学での学びに新たなページを刻みませんか？1・2年次で学んだ多職種連携の基礎的知識を、これらの授業で更に深めていただきたいと思います。

最後になりましたが、今年度の実習をお引き受けいただきました施設関係者の皆様をはじめ、本授業にご協力いただきました教職員の皆様に感謝いたします。

慢性疼痛高度医療者養成プログラムのコース修了式を終えて

慢性疼痛教育委員長・医用工学部 臨床工学科 教授 丸山 淳子

11月8日(金)白子キャンパスにて、慢性疼痛高度医療者養成プログラムのコース修了式が執り行われました。今回は4年ぶりの対面の修了式となりました。修了者39名のうち、16名が参加しました。

このプログラムでは、1年次後期の講義と、2年次8月の体験型学習ワークショップの両方を受講し単位取得した学生に対して修了証が授与されます。当日は豊田長康学長から学生一人ひとりに修了証が手渡されました。その後、「両大学の学生が一緒になって、慢性疼痛をテーマにしてディスカッションを行うことは、大変貴重な機会になったと思う。今後も両大学の本プログラム修了者が集まって自主的に活動を続けているグループである“すずみえ”に入ってコミュニティの輪を広げ、この経験を活かして今後の医療従事者として活躍してほしい」とお祝いの言葉をいただきました。

修了生からは、「三重大学や本学の他学科の学生たちと交流でき、一緒に多職種連携、チーム医療に必要なコミュニケーションについて学べる良い機会になった」などの感想がありました。

今年で9年目を迎えますが、複数の大学が関係するプログラムが長期に渡って継続、維持されているのは全国的に見ても例がありません。学生たちが積極的に参加してくれていることに加え、両大学の教職員が創意工夫を重ねている成果であると思います。他の選択科目と同様に、両大学ともに履修者数の確保が課題になっていますが、この

プログラムの特徴をアピールする機会を積極的に開拓し、今後ますます内容を充実させていきたいと考えています。

最後になりましたが、本プログラム実施にあたりご協力いただきました両大学の教職員の皆様、ワークショップのお手伝いをしていただきました上位学年の修了生、すずみえ、大学院のティーチングアシスタントの皆様心より感謝いたします。



医療系eラーニング全国交流会会長賞を受賞

LMS研究部会 部会長・医用工学部 臨床工学科 准教授 三浦 英和

本学とlearningBOX株式会社が推進している医療系資格合格を支援する産学連携プロジェクトが、一般社団法人オンライン教育産業協会が主催する第21回日本e-Learning大賞「医療系eラーニング全国交流会会長賞」と、一般社団法人日本1EdTech協会が主催する1EdTech Japan賞「優秀賞」をW受賞しました。

今回の受賞は「『learningBOX』で医療系資格合格を支援する産学連携プロジェクト」と題してlearningBOX上で使える過去問クイズをデータベース化して他大学の先生とも共有し、教育コミュニティを形成していこうという取り組みです。受賞を機に、さらに多くの医療従事者にeラーニングの重要性を伝え、教育の質を向上させるための新たなプロジェクトを推進していきます。



放射線技術科学科の16名が 「令和6年度第一種放射線取扱主任者試験」に合格しました

保健衛生学部 放射線技術科学科 助教 鈴木 恵子

8月21日(水)～22日(木)に実施された令和6年度第一種放射線取扱主任者試験にて、放射線技術科学科の16名(4年生3名、3年生7名、2年生6名)が見事合格しました。今年の全国受験者の合格率は32.3%でした。非常に難しい試験ですが、本学での学業と並行し、よく頑張って勉強した結果がこのように現れて大変うれしく思います。本当におめでとうございます！

- 主任者試験は、普段大学で勉強するよりも難しい問題が多いため、初めはとても苦戦しました。特に、化学と実務が難しく、過去問も分からない問題ばかりでとても大変でした。ですが、あきらめずに毎日勉強を続けていくことで、次第に解ける問題が増えていき試験に合格することが出来ました。この調子で4年生の国家試験も頑張りたいです。(3年 植野渚さん)
- 勉強を始めて、実務などまだ習っていない範囲があり合格は難しいのかなと感じましたが、過去問を解いていくうちに理解したり暗記すべき核種などが分かってきて、徐々に得点が上がって合格することができました。問題の運も大事ですが当日まで点数を伸ばすことはできるので、諦めず頑張ることが大切だと感じました。今回の資格勉強で自分に合った勉強法を見つけることができました。この経験を国家試験などにも活かしていきたいです。(2年 森下碧威さん)



卓球部の学生が「第64回東海卓球選手権大会」に出場

卓球部 顧問・保健衛生学部 リハビリテーション学科 准教授 島崎 博也

11月15日(金)～17日(日)日硝ハイウエアアリーナ(サオリーナ)にて「第64回東海卓球選手権大会」が開催され、卓球部の内山和さん(放射線技術科学科2年)が一般女子シングルス部に出場しました。

この大会は、東海地区4県(愛知県・岐阜県・三重県・静岡県)の予選会を勝ち上がった選手たちが出場できる大会です。本年は、本学のある地元三重県での開催であったため、内山さんも無事に三重県予選会を通過し、出場権を獲得しての出場でした。

結果は残念ながら2回戦敗退となってしまいましたが、東海地区の猛者相手に果敢に挑み、一生懸命頑張って試合をし、良いプレーが飛び出す場面もありました。

今回、このような上位の大会に顧問である私を連れてきてくれ、一緒に参加できたことについて非常にうれしく思います。内山さん、有意義な時間をありがとうございました！

最後になりますが、卓球部は2019年より活動を再開して約6年が経過しており、現在も新規部員を募集中です。勉学や学外実習など、大学生活が忙しい中における余暇活動の一つとして、一緒に卓球を楽しんでみませんか！基本的に、毎週月曜日の夕方18時30分頃より千代崎キャンパスの体育館にて活動をしています。卓球が好きな方や興味のある方は、是非とも卓球部までご連絡ください。



「全国・検査と健康展 in Suzuka」を本学で開催

保健衛生学部 臨床検査学科長 米田 操

11月17日(日)本学にて、本学科の協力のもと三重県臨床検査技師会主催の「2024全国・検査と健康展 in Suzuka」が開催されました。鈴鹿市の地域住民を対象に血管超音波(頸動脈)、骨密度、血管年齢、認知症、ヘモグロビン測定等の検査を無料で実施しました。当日は、開催1時間前から長列となり大盛況でした。150名を超える参加人数でした。参加者にとっては自身の健康を見つめ直すよい機会となったと思います。三重テレビ放送と伊勢新聞にも取材に来ていただき、検査の様子が地域に広く発信されました。また、本学科3年生の山口史さんが「臨床検査技師を目指して」という演題で発表しました。臨床検査技師になりたい気持ちが伝わりました。市民からの質問にもはっきり丁寧に答えていました。



山口史さんの発表

医療における臨床検査技師の役割は、地域医療に貢献することが必要と考えられます。啓発事業を通じて地域住民に臨床検査を経験してもらい、臨床検査技師の魅力を知ってもらうきっかけにもなりました。このような活動が本学発展の要因にもなると確信しています。

第20回三重県保険医協会 医療研究フォーラム 特別演題発表

ピンクリボン活動部 顧問・保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 北岡 ひとみ

9月8日(日)プラザ洞津にて、医師及び歯科医師の団体である三重県保険医協会の「第20回医療研究フォーラム」が開催され、放射線技術科学科3年生の学生3名と共にピンクリボン活動部のこれまでの活動を発表しました。トップバッターでもあり緊張したと思いますが立派な発表となりました。今回、特別演題として発表させていただいたことは大変名誉なことであり、今までの活動について発表を行った学生たちにとって非常に貴重な経験になったと思います。以下、学生の感想です。



- 医療を学んでいる学生として行ってきた活動を発表させていただきました。とても緊張しましたが、座長に「立派な試みである」と仰っていただき、活動の成果を感じることができました。また、意見交換会にて感謝状をいただき、大変貴重な経験になりました。【3年 小保方佑香(部長)】
- 共同研究者として発表内容の作成を行いました。約4か月にわたってピンクリボン活動部としての活動内容や目的などをまとめました。その中で自分たちの考えがどうしたらダイレクトに伝わるのかということを考え、言語化したことで活動の意義をさらに明確化し、また再確認することができました。このような貴重な機会に参加できたことに感謝したいです。【3年 黒田奈那】
- 医療を学んでいる学生だからこそ、できることは何かと考え、活動していることが伝わる発表内容になるように心掛けました。当日は、医師や歯科医師の方々の演題発表を拝聴することができ、とても興味深く、勉強になりました。またこのような機会をいただけたら、参加したいと思いました。【3年 三輪千夏】

作業療法学専攻の学生が国際学会で演題発表

保健衛生学部 リハビリテーション学科 助教 野口 佑太

11月6日(水)～9日(土)「第8回アジア太平洋作業療学会(8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024)」が開催され、本学学生が研究発表を行いました。演題は、作業療法学専攻3年生の榎本灯李さんと森下藍さんが「Effects of Different Arm Sling Designs on Gaze Behavior」、太田涼乃さんと小塚直樹さんが「Cooking Time and Use of Cooking Appliances Among Older Adults」というテーマで、それぞれ英語による発表を行いました。

Asia Pacific Occupational Therapy Congressは、アジア太平洋地域の19か国から作業療法士が集まる学会で、4年に一度、各国で開催されています。国際学会では、研究成果を発表するために英語で抄録をまとめ、厳正な査読を経て採択される必要があります。

今回、本学学生による演題が採択され、発表の機会を得られたことは非常に喜ばしいことです。世界各地から参加した作業療法士や学生と活発に議論し、多くの知見を得ることができ、貴重な機会となりました。

発表を終えた学生からは、「各国の作業療法に対する考え方や課題、他国との共通点について学ぶことができた」「今後も学びを深め、様々な場で活躍できる作業療法士を目指して努力していきたい」といった感想が聞かれました。

今後も学生の「やりたい」「やってみたい」を大切に、可能性を広げるための様々な取り組みを実施していきます。



作業療法学専攻の学生が「第3回日本地域医療学会学術集会」で演題発表

保健衛生学部 リハビリテーション学科 助教 濱田 匠

11月30日(土)～12月1日(日)に開催された「第3回日本地域医療学会学術集会」において、作業療法学専攻4年生の相坂綾乃さんが、「大学では学べない地域医療の実際～作業療法学生が考える地域医療とは?～」というテーマで演題発表を行いました。

日本地域医療学会は「地域における保健・医療・介護・福祉等とその連携活動に関する調査・研究及び教育、技術の向上、ならびにその社会応用の促進を図ること」を目的としています。

今回、学生は4年生で経験した長期間の臨床実習を通じて、「地域医療の臨床を知らなかった学生の視点から、地域医療について発信したい」という強い思いを抱き、発表することとなりました。

「地域医療で対象者の願いを叶えることは、医療従事者が対象者に寄り添い、本当の願いを汲み取ることであり、対象者が生まれ育った地域で生活することを実現するために、より一層に多職種連携の推進が必要である。退院後も住み慣れた地域に戻ることが対象者の幸せにつながると考える」と力強く発表し、1～3年生で学んだ医療人底力教育や多職種連携教育と、長期間の臨床実習で経験したこととがつながるような内容でした。発表を終えた相坂さんからは、「今回の学会を通してすごく刺激を受けました。今後も自己研鑽を重ね、目標とする作業療法士像に近づいていきたい」との感想が聞かれました。

医療者としての礎を築くことができるよう、学生の主体性を尊重し、在学中に様々な取り組みができる環境を整えていきたいと思っています。



給食経営管理論実習にて100食提供を実施

保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 吉村 智春

医療栄養学科3年生の冬期の給食経営管理論実習にて、11月の3日間、学生食堂の設定で大量調理実習(各100食)を実施し、医療栄養学科2年生および教職員の皆さまに昼食の提供をしました。学生は、前期の給食経営管理論Iで献立作成、秋期の応用調理学実習で大量調理を学び、安全で美味しい食事の提供が出来るように準備をしました。これまでに学んだ調理学、食品衛生学、栄養教育論などの知識を活かし、管理栄養士として食のマネジメントに必要な業務を体験することが出来ました。

四苦八苦しながら試作をして献立や作業工程表など生産管理に必要な書類や発表資料作成し、衛生管理について必要な記録などを確認してやっと提供当日を迎えます。当日は調理をするグループだけでなく、フロアで対応する学生も普段より緊張しながらも一生懸命頑張っていました。「美味しかった」「彩りが良い献立だね」「来年は自分たちが頑張る」など教職員や後輩から感想をいただき、和らいだ表情が印象的でした。100食提供を終えて学生たちが少し成長したようで嬉しく思います。100食提供後は病院食の設定の大量調理実習を実施し、春休みの臨地実習に臨みます。食べに来てくださった教職員の皆さま、医療栄養学科2年生に感謝いたします。



H&Nサークル 栄養成分表示の啓発活動(第2弾)

H&Nサークル 顧問・保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 大杉 領子

医療栄養学科の学生を中心として活動しているH&N(Health & Nutrition)サークルが三重県 農林水産部 農作物安全・流通課と連携し、野菜不足の改善や栄養成分表示の啓発活動を行いました。

本事業は県民の消費者に向けた食品表示の啓発を目的とし、特に若年層における食品表示への関心を高めることをめざして、三重県と本学が連携して実施しています。より効果的に啓発できるよう、食に関する知識を持つ本学の学生が、三重県の食生活の現状や食品表示について学び、情報発信に取り組んできました。

今年度は令和4年度県民健康・栄養調査を参考に「野菜不足を改善するには!？」をテーマに企画立案を考えました。昨年度に続き事前学習として、鈴鹿保健所の管理栄養士の先生から令和4年度県民健康・栄養調査の結果についてお話を伺い、11月9日(土)~10日(日)の大学祭にて野菜不足の改善や食品表示の啓発の展示を行いました。また令和4年度に実施した「三重県産食材を活用した簡単レシピ」に続いて、野菜不足の改善に向けて野菜を多く使用したレシピの冊子(第2弾)を作成しました。

今回の取り組みについて三重県のホームページでもご紹介いただいています。ぜひご覧ください。



学友会執行部とクラブ・サークル運営委員会の協働で秋季清掃活動を実施

学友会執行部 会長・保健衛生学部 医療栄養学科 管理栄養学専攻 3年 倉田 華

10月20日(日)学友会執行部員と、執行部の呼びかけに賛同したクラブ・サークル部員、21団体55名の学生が秋季清掃活動を実施しました。

今年度は、千代崎キャンパスから千代崎駅間の通学路やキャンパス周辺など、2つのグループに分かれてゴミ拾いを行いました。

当日は天候にも恵まれ、参加した学生は積極的に清掃活動に取り組み、各グループともたくさんのゴミを拾うことができました。

また活動中には、地域の方から「ありがとうね」と声をかけていただくこともできました。

今後も地域の環境美化に努め、大学周辺にお住まいの方に気持ち良く過ごしていただけるように、また、私たちも気持ち良く通学ができるように、定期的に清掃活動を行っていきたいと考えています。

今回ご協力いただいた学生の皆さん、ありがとうございました。

<学生課>



2024年ソーシャルワーカーデイIN三重

保健衛生学部 医療福祉学科長 藤原 芳朗

11月23日(土)千代崎キャンパスにて、三重県の社会福祉士会・精神保健福祉士協会・医療ソーシャルワーカー協会の3団体合同主催で表記の大会が開催されました。本学医療福祉学専攻の1年生から3年生の希望者を含め、県内3団体から多くの参加者があり盛大に実施されました。

実践報告として、三重県医療ソーシャルワーカー協会から三重大学医学部附属病院に勤務する医療ソーシャルワーカーの鳥居春花さんより「ソーシャルワーカーのおしごと」と題して、転院支援の際の工夫や心がけている点、在宅支援の実際等について実践の内容が語られました。次に社会福祉士会の代表として、松阪市社会福祉協議会 福祉のまちづくり課の鎌倉史弥さんより「社協ってなにしてるの」というテーマで、地域福祉計画としてのつながりと支え合いの実践報告がなされ、共同募金活動や生活困窮世帯への相談援助、食品配布事業、高齢者・障がい者世帯への災害啓発活動などの取り組み実践が生きて語られました。また、精神保健福祉士協会からは、鈴鹿厚生病院 ディケアセンターに勤務する堤夕花さんが「精神科ディケアでの関わりを通して」のテーマで、精神障がい者へのディケア場面での事例を取り上げ、統合失調症患者との生活に関する援助の内容、医療費や年金受給の相談、家族関係の調整等詳細な報告がなされました。

以上の3人の発表者はいずれも、2021・2022年度の本学卒業生であり、私達も教育者冥利に尽きる一日となりました。現役学生にとっては現場の生の実践事例を身近な先輩から聞くことができ、普段は聞けない本音の話は説得力があり、また、遠くない将来、社会福祉専門職を目指す人材である在学生には貴重な学修の機会となったと受け取ることができました。ソーシャルワークに関する3団体の皆さまとは、実習だけでなく機会を見て互いに協力・支援を継続しつつ良好な関係を築いてまいりたいものです。



日本家族心理学会が開催されました

保健衛生学部 医療福祉学科 臨床心理学専攻 教授 渡部 千世子

10月12日(土)～14日(月)千代崎キャンパスにて3日間にわたり、日本家族心理学会第41回大会が開催されました。臨床心理学専攻の渡部が大会長を、奥山滋樹助教が事務局長を務め、看護学部の土田幸子准教授や医療福祉学科の上原俊介准教授にはシンポジストとして、企画広報課の加藤裕行さん、看護学部の河尻純平准教授にはテクニカルスタッフとして支えていただきました。他にも本学教職員や学生・院生など多くの皆さまにご協力いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、2024年は元旦早々能登地方で震災が発生し、自然災害への備えが急務であることを再認識しました。発災時や復興時には家族や地域の協力や支え合いが欠かせません。そこで今回の大会テーマを「個を抱える『うつわ』としての家族、地域の再考」として、多様な家族を地域でどのように支援していくのかについて検討しました。大会記念講演とシンポジウムは一般公開で、参加者は約150名と盛況でした。

参加者からは、学生・院生が礼儀正しく丁寧な対応であったとお褒めの言葉をいただきました。撮影や配信に関する高度な技術を備えた教職員が大学内にいるのは羨ましいとの声も聞かれました。また、レムシャイドさんをお願いした薬膳弁当や懇親会の食事とても好評でした。大会運営に協力してくれた学生・院生からは、発表を聞いたり他大学の院生や先生方と出会う機会を得て学ぶ意欲がより高まった、大会運営を通して学部生と院生との交流が深まり進学の相談などしやすくなったとの声も聞かれました。今後もこのような機会を積極的に受け入れ、学生・院生の教育に貢献できればと考えています。



教育支援の会「保護者懇談会」および「第2回役員会」を開催

教育支援の会では、学生の様子や学業の状況などを保護者の方にご理解いただく機会として、毎年「保護者懇談会」を開催しており、今年度は10月6日(日)に実施しました。

昨年度同様、大学にお越しいただき対面での面談と、Zoomを使用したオンライン面談の二つのパターンを用意し、遠方の方でも参加しやすい体制で実施しました。

当日は約600名の保護者の方にご参加いただき、個別で学生の履修状況や進路・就職に関するご質問、学生の日頃の様子などについて教員がお答えしました。今年度の保護者懇談会についても、ご出席いただいた皆様のご協力によりトラブルなく終えることができました。

また同日に「教育支援の会 第2回役員会」を実施しました。役員会では、来年度予算案などについて話し合ったほか、就職状況の報告などがなされました。

今後も学生の諸活動の支援等を円滑に進められるよう努めてまいります。

＜教育支援の会事務局・学生課＞



「第35回ふくしイベントふれあい広場鈴鹿」ボランティアスタッフとして参加

10月12日(土)鈴鹿ハンターと弁天山公園にて、鈴鹿市社会福祉協議会が中心となって市内の各福祉団体等で構成する実行委員会の主催により「第35回ふくしイベントふれあい広場鈴鹿」が開催され、本学学生がボランティアスタッフとして参加しました。

当日は天候にも恵まれ、多くの方が参加される中、学生はゲームコーナーや車いす体験ブース、スタンプラリーコーナーなどを担当し、小さな子供をはじめ、障がいを持った方や高齢の方とも交流させていただきました。



今回が初めてのボランティアとなる学生もいましたが、協力し合いながら来場者に楽しんでいただくことができました。参加した学生からは「とても忙しかったけれど、楽しんでもらえて嬉しかった」「自分自身の息抜きになった。参加して良かった」といった感想が聞かれました。

今後も地域の方との交流の場を大切に、ボランティア活動を行っていききたいと思います。
 <ボランティアセンター>

学友会

学友会主催「ハロウィンパーティー」を開催

学友会執行部・薬学部 薬学科 1年 山本 健人

11月1日(金)白子キャンパスにて、学友会主催の「ハロウィンパーティー」を開催しました。今まででありそうでなかったハロウィンパーティーを今年初めて開催しました。多くの学生が参加しましたが、とても豪華な料理と飾りつけを前に皆が大興奮。コスプレをしている人が居たり、賑やかな声が飛び交っていました。

特に、豪華景品をかけたチーム対抗ハロウィंकイズ大会では、クイズに正解するために周囲の人とのコミュニケーションが必要となるので、どのチームも積極的に声を掛け合う姿が見られました。ほとんどの人が初対面であるはずなのに、和気あいあいと皆が話していたのがとても印象的でした。

このようなイベントを通じて、学年・学部の枠を超えた学生同士の交流だけでなく、そのイベントの歴史的背景や国内・海外での文化の違いについて知る機会を設けることができたことに嬉しさを感じています。

また、今回のイベントは学友会執行部の1年生が運営しました。学友会メンバーが全員1年生という中、先生や先輩たちのサポートのもと、「皆が楽しめるイベントを作りたい」という思いで準備をしてきました。企画書の作成から当日まで上手い出来ないこともありましたが、参加いただいた多くの学生の皆さんの楽しんでいる表情を見ることが出来て、開催して良かったと思いました。

最後に今回ハロウィンパーティーを開催するにあたりご協力いただいた皆さま、ご参加いただいた学生の皆さん、本当にありがとうございました。
 <学生課>



学友会

京都バスツアーで学生同士の交流

学友会執行部・保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 2年 植松 拓未

12月21日(土)全学生を対象に参加者を募り、バスツアーを開催しました。「学年・学部問わず、交流を深めよう」をスローガンに千代崎キャンパスから京都へ向けて、バスが発車しました。当日の朝は、少し雲のかかった天気で、冷えましたが、京都へ着くと、所々雲はあるものの晴れへと変わり、過ごしやすい気候で楽しめました。

1つ目の目的地、atelier 京ばあむ・おたべ本館は、京ばあむやおたべの工場見学やスイーツを食べることができました。京ばあむやおたべは、一つ一つ手作業で、長い時間をかけて作られていました。また、出来上がった品をお土産として持ち帰ることもでき、たくさん買って、両手いっぱいになっている方もいました。

2つ目の目的地、京都市内散策は、高台寺からバスを降り、それぞれの学生が自由行動をしました。散策時間は、3時間半。清水寺や八坂神社、祇園などが近くにあり、様々な場所に行くことができました。清水の舞台からの景色は、絶景でした。



今回、交通状況などで時間が押した部分もありましたが、年の最後に、学年・学部関係なく交流ができ、良い思い出になったと思います。今回のバスツアーに参加いただいた皆さん、ありがとうございました。今年度参加いただいた方はもちろん、参加できなかった方も、また来年度以降、参加して楽しい思い出を作ってください。

<学生課>

学生相談室通信

学生相談室カウンセラー 村山 諒太

こんにちは。学生相談室のカウンセラーの村山諒太です。1月は学生にとってはテストや国家試験が近づき、あたふたとしやすしい時期かと思われます。そこで今回は、「環境・方法を整える」ことについて、少しお話をさせていただきます。

勉強や仕事などで、「何かうまくいかないとき」は、「自分はだめだな」と自身の能力に意識がいくこともあります。確かに、人には誰しも得意なこと、苦手なことなど能力には差があります。しかし、「自身の能力が生かせる環境・方法」なのかどうかを考える必要はあるかと思います。例えば、「カフェで勉強をするほうがよい」/「個室で勉強するほうがよい」、「書いて覚えるほうがよい」/「聞いて覚えるほうがよい」など意見が分かれることがよくあります。これはどちらも正しく、「自分に合った環境・方法で勉強するほうがよい」ということになります。

人生の中で「自分はだめな人間だ」と思う機会もあるでしょう。そう考えることも必ず悪いとも言えないです。そのような場合「自分を変える」というのも、一つの方法ではありますが、「環境や方法を自分に合ったものに変える」ことも一つでしょう。

いろいろな方法を試す中で、うまくいかない場合や悩んだ場合は、友人、家族、学生相談室などに相談してみることも「環境・方法を整える」ことであると考えます。



「中国伝来は唐辛子？和からし？」

おじさんは納豆が好きでよく食べる。納豆は畑の肉と言われる大豆を発酵させた発酵食品で、栄養豊富な「日本のスーパーフード」と言われている。納豆を食べると我慢強くなるんだ。ネバネバだけに NEVER、NEVER GIVE UP なんちゃって。納豆をかき混ぜる時、おじさんは「からし」を入れるけど、最近では半数近くの人からはしを入れないらしい。そもそも、納豆にからしを入れるのは臭い消しのためだったそう。発酵が進むと臭いがきつくなるのでそうしたらいい。今は冷蔵庫があるから納豆の発酵が抑えられ、臭いを消す必要もなくなったので、からしの役目は香辛料になっちゃったんだ。うーん、納豆、納豆。それを言うなら「納得、納得」でしょ。

ところで、この「からし」、「からし菜」の種子から作るって知ってたよね？ 知ってタネ？ 知らんタネ。日本で一般的に使われているのは「和からし」で、欧米で使われているのは「マスタード」だよね。似ているけどちょっと違う。からし菜の種類が違うんだ。和からしはオリエンタルマスタードっていうからし菜で、マスタードはイエローマスタードっていうからし菜なんだ。製法もちょっと違う。和からしは種子だけをすり潰して作るけど、マスタードは砂糖、ワイン、お酢など調味料を加えて作るんだ。

日本では色んな食べ物に「からし」を付ける。からしが欲しくなる食べ物と言えば・・・トンカツ、八宝菜、シュウマイ、かた焼きそば、春巻き、冷やし中華、豚の角煮、ピフテキ、納豆などなど。おじさ

んが絶対に外せないと思う御三家は、「おでん」、「トンカツ」、「かた焼きそば」というところかな。うまい選び方だね。和・洋・中の揃い踏み。「からし無しで食べるなんて、ばっカラシー」ってな具合かな。

和からしのオリエンタルマスタードは中央アジア原産で、平安時代以前に中国から伝来し、「からし」として日本で大ヒットし定着したんだ。残念ながら、伝来元の中国ではそれほど使われず、おじさんは何度も中国へ行ってるけど、食事の時にからしを使ってるのを見たことが無い。中国では、痺れるくらい辛い花椒(中国の山椒)があったから、「からし」くらいの辛さじゃ物足りなかったのかもね。

ホントに花椒は食べるのが辛くなるほど辛いよね。あれっ、「つらい」と「からい」は同じ漢字？ 調べてみたら、国が定めた「常用漢字表」によると、「辛」の訓読みは「からい」だけで、新聞や公用文書では「つらい」は平仮名にしてるみたいだね。話が逸れたけど、花椒と辛さでは引けを取らない「唐辛子」は、今や中国や朝鮮半島では無くてはならない香辛料になってるよね。だけど、唐辛子は中国が本場じゃないからね。中南米原産で、日本には中国や朝鮮半島よりも早く、16世紀中頃にポルトガルから伝来したんだってさ。唐辛子の話はまた今度。今度とお化けは出たこと無いって言うから、期待しないで待ってちょ。

今回は、「辛い」話だったけど、理解するのはちょっと「辛かった」かな？ あっ、逆だ。



第16回イルミネーション点灯式を行いました

12月13日(金)白子キャンパスにて、第16回イルミネーション点灯式を行いました。

例年多くの地域の皆さまにご参加いただき、点灯式ではカウントダウンに合わせて12万個のLEDが白子キャンパスを鮮やかな光で包みました。

今年度は四日市メリノール学院聖歌隊による合唱や、本学ボランティア学生によるトーンチャイム演奏、さらに津市在住のソプラノ歌手 村林浩代さんによるクリスマスソングのリサイタルを行いました。

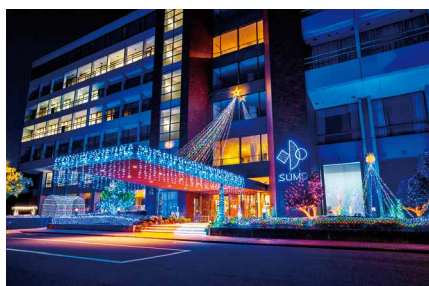
寒い中ではありましたが、参加された皆さまと共にイルミネーションの輝きと音楽を楽しむことができました。

点灯式の事前準備や当日の司会・進行、募金の呼びかけや駐車場警備などを行った学生ボランティアたちは、学科や学年の垣根を越えて仲を深める良い機会となりました。

また、点灯式とあわせて能登半島地震と豪雨災害への支援募金の呼びかけを行いました。その結果、23,960円もの募金が集まりました。皆さまの温かいご支援とご協力、ありがとうございました。

今年は12月中旬の開催となり寒空の下での点灯式となりましたが、地域の方々にも足を運んでいただき、実施できたことを感慨深く感じるとともに、大変嬉しく感じます。参加いただきました皆さまに感謝申し上げます。

＜ボランティアセンター＞



行事予定

2025年2月～5月

2月10日(月) 10月14日分振替休日
 12日(水) ～15日(土)・17日(月)～19日(水)
 後期・冬期 追・再試験
 22日(土) 計画停電(白子キャンパス)
 23日(日) 計画停電(予備日・白子キャンパス)
 28日(金) 卒業判定会議
 3月1日(土) 大学院2期入試
 6日(木) 一般選抜B日程・総合型選抜(5期)
 (千代崎:立入禁止)
 14日(金) 学位授与式
 20日(木・祝) スポーツコンディショニングフェス
 21日(金) 進級判定会議
 22日(土) 春のオープンキャンパス
 31日(月) 在学生ガイダンス 在学生健康診断

4月1日(火) 新入生オリエンテーション(学科)
 在学生健康診断
 2日(水) 入学式
 3日(木) 新入生オリエンテーション(全体)
 在学生健康診断
 4日(金)・12日(土) 新入生健康診断
 13日(日)・19日(土) 在学生健康診断
 26日(土) 補講日
 29日(火・祝) 火曜授業日
 5月6日(火・振替休日) 創立記念日
 10日(土) 補講日
 18日(日) 第1回オープンキャンパス
 24日(土) 補講日
 28日(水)～31日(土) 春期定期試験と解説

※上記予定は変更になる場合があります。A-Portalおよびホームページで最新情報を確認してください。